

解答

一

1 エ 2 ア 3 イ 4 エ 5 イ

二

問一 エ

問二 イ

問三 智也は座敷わらしが近づいて来ることがわかって、カッチャンに見せられると思い興奮しているが、カッチャンは不思議なものが見えてしまうことに悩んでおり、座敷わらしを見たくないと思っている。

問四 エ

問五 ウ

問六 智也が自分を信じてくれるように、自分も智也の言葉を信じることで、智也を安心させたいという心情。

問七 ア

問八 エ

問九 イ

問十 エ

三

問一 A

問二 E

問三 B

問四 U

問五 C

問六 A

問七 D

問八 I

二 解説

問三 本文全体からは、智也が座敷わらしを怖がっておらず、現れるのを心待ちにしている様子がかがえます。

前書きには、「カッチャンは、見えないはずの不思議なものが見えてしまうという少し変わったところがありますが、周囲の人たちにはわかってもらえず、実は、本人も悩んでいます。」とあります。従ってこれらの内容をまとめて書き表します。

問十 選択肢アでは「冷ややかに描いている。」という表現が不適切です。選択肢イは「夢と現実が交じり合った世界」の部分が合致しません。智也とカッチャンは、座敷わらし、UFOなどを信じています。また、選択肢ウの「心のつながりの不確かさ」という内容は本文から読み取れません。よって最も適切なものは選択肢エとなります。

三

問四 点線で囲まれた部分のうち、初めの一文に着目します。「生命を次につなげていくためにわれわれが編み出した様々な知恵、いわば総合智」という記述は、選択肢ウにある「人類の営みが積み重なったもの」と言い換えることができます。

問八 二重線の内容が、次段落で具体的に説明されています。「しかしそんな人間も、」と「ではないかと思いません。」の部分で述べていることが選択肢イと一致します。